

各従業員
お取引先の皆様へ

令和5年10月（第12期）決算のご報告

温泉の素.com 株式会社
代表取締役 宮下季代子

平素は、格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。
別紙の通り、第12期の決算がまとまりましたのでご報告申し上げます。

<はじめに・・・当期の主な動き>

■日本生化学株式会社の倒産に伴う生産機械類・事務備品の買受け

日本生化学は、入浴剤や化粧品のおEM製造販売を行っていた企業であり、弊社と同様「小ロット・多品種」の特に入浴剤・入浴料のおEMを製造していたが2022年12月に倒産した。生産機械類・事務備品の買受け、製造レシピ（処方配合、調合手順書、検査方法など）を取得し、日本生化学から商品を購入していた企業の依頼を多数引き受けている。

合計342万円（内訳：減価償却分237万円、消耗品分105万円）

■〔第八回〕事業再構築補助金 採択

弊社は、ほぼ温泉の素（入浴剤）の一本槍であったため、新たな事業としてオリジナルのシャンプー・トリートメント・ボディソープの開発に取り組んでいる。

弊社の強みは、創業以来「小ロット・多品種」を念頭に製造ラインを構築し、社内には営業・試作研究・商品企画デザイン・商標・薬事・印刷など各部門の人員を有し、受注から出荷まで一貫した生産体制を整えていることである。

また、濃縮技術により、他社が手掛けないオリジナル製品の小ロット生産が可能である。

弊社の主力製品である各温泉の特徴を再現した温泉の素（入浴剤）は、日本全国の温泉旅館で販売されている。一方、宿泊施設という点では同じだが、温泉のないホテルは販売先になりづらい。そこで、弊社の強みを生かし、施設ごとのオリジナルという付加価値を付けたシャンプー・トリートメント・ボディソープの製造に取り組み、既存取引先である旅館との取引の拡大を図るとともに、新規市場としてホテル業界に進出することを目指す取組を始めた。

■営業支援ツールの導入

前期は、営業を効率的に行うため自動FAX送信システムを導入した。システムを活用することで、見込顧客への資料確認、分析表送付依頼、試作の質感・デザインの確認を自動化することができた。

合計141万円

今期は、次のステップとして、新規開拓、休眠顧客へのアプローチ、展示会などで獲得した見込顧客情報の整理や営業担当によるフォローメールを自動化させ、顧客の興味関心を把握し1人1人に合わせたメール配信による定期的な情報提供、顧客の温度感を把握しタイミング良くアプローチする仕組みを構築させた。

合計280万円（2年一括払い：前払金230万円、今期50万円）

■勤怠管理・人事労務管理システムの導入

従来の勤怠管理は、ICカードで打刻を行い、エクセルで集計し会計ソフトへ入力していた。手作業での給与計算は、時間がかかる上に、ヒューマンエラーが発生しやすく、正確性を保つことが大変であった。これらのミスを防ぐために、チェックを何回も実施し一日がかりで行っていた。

今期は、システム導入によって、給与計算の作業時間削減ができた。また、年末調整は、web上で従業員が入力したものを確認するだけとなり、従業員情報は、システムで一元管理し労務の効率化を図れるようになった。

合計 56 万円

■商品在庫製造

従来行ってきた生産方式は完全受注生産である。

しかし、近年の売上増加と人材不足によって、従業員の残業時間も増加した。対策として2023年5月より注文の多い商品については、あらかじめ在庫を製造するようにし、労働時間平準化に努め、残業時間の削減を図った。

商品在庫として1,979万円の在庫を置くようにした。この在庫により11月・12月の繁忙期でも22時・23時といった残業は皆無となり、18時・19時ころには退社できるようになった。

■抗菌美装一部移転

2021年2月に現在の飯田市鼎下山420に移転したばかりであるが、抗菌美装はネット通販の伸びにより今後在庫室の拡大が求められることや、温泉の素.comは売上増加と共に印刷機の複数台の設置が必要となり、さらに商品在庫置き場の確保が必要となったことにより、両社協議の上、2023年9月に抗菌美装の一部が従前の建物へ移転した。

これにより、引越し費用や間仕切りの撤去及び移動費用、IP電話・CTIの導入費用、商品在庫置き場の棚用に足場の購入費用が発生した。

合計 820 万円（IP電話・CTI導入費用除く）

■IP電話、CTIの導入

抗菌美装一部移転に伴い、IP電話（ビジネスホン）を導入し、離れていても内線通話を可能にした。

さらに、CTI導入により、受電対応では、電話番号をキーとする自動顧客情報呼出し機能で事務対応員や営業員の省力化を図り、掛電対応では、必要顧客情報を呼出し内容確認した後、ワンクリックで相手先に電話発信する機能で営業員の支援を図った。

IP電話（ビジネスホン） 267 万円

■損益計算書 内訳は比較貸借対照表をご覧ください。

【売上】売上 23,846 万円（対前年比+1,628 万円=107.3%）

内訳：温泉の素 対前年比+1,619 万円、化粧品 対前年比+9 万円

温泉施設向け入浴剤、企業販促・アニメ向けの入浴剤ともに売上は好調であり、企業販促・アニメ向けの入浴剤にいたっては売上前年比 156.1%であった。

入浴剤事業は、このままさらに伸びていくと確信している。

【仕入】仕入 5,230 万円（対前年比-1,006 万円=83.9%）

2023 年 5 月より注文の多い商品については、労働時間の平準化や、受注から発送までの時間短縮等を目的に、在庫を持つ生産体制へ切り替えた。

初めての試みであり、需要予測が立たないため、受注量の 2~5 倍を作る方針で生産し、商品在庫を多く保有した。

商品在庫製造開始から並行して、在庫管理システムの開発に取り組んでいる。

2024 年春頃には完成予定であり、これにより需要予測に柔軟に対応することが可能になり、当該体制への移行による効果が現れると考えている。

【販売費及び一般管理費】 16,059 万円（対前年比+2,436 万円=117.9%）

広告宣伝費：+66 万円

販促 expo 2023、国際ホテルレストランショー HCJ2023 に出展。

荷造運賃：+56 万円

売上増加による荷造運賃の増加を防ぐため、運送会社の契約先を増やした。

納品場所や個口数に応じて運送会社を選択することで、大きな増加を防ぐことができた。

役員報酬：+456 万円

宮下季代子が代表取締役役に就任し、さらに取締役が 1 名増えたことにより増加。

給与手当：-471 万円

宮下季代子の給与がなくなったこと、従業員退職に伴い減少。

修繕費：+653 万円

抗菌美装一部移転や商品在庫室設置に伴い、引越し費用、間仕切りの撤去や移動費用、商品在庫置き場の棚用に足場の購入費用（188 万円）などにより増加。

事務用品費：+87 万円

勤怠管理・人事労務管理システムの導入に伴い増加。

消耗品費：+427 万円

日本生化学の生産機械類・事務備品買受費用により増加。

旅費交通費：+381 万円

日本生化学の生産機械類・事務備品引上げ費用。（宿泊費+日当+食費+ガソリン代他 137 万円）

8 月より通勤手当の増額、通勤車両費を増設。（30 万円×4 か月=120 万円）

保険料：-298 万円

経営セーフティ共済（中小企業倒産防止共済制度）の掛金を前期は前払い充当で 240 万円振込したが、前払い充当終了に伴い今期から 20 万円 12 回支払いとなる。
支払い 1 回目は 2023 年 10 月。

システム利用料：+429 万円

今期、勘定科目へ追加した。
前期は支払手数料としていた、薬機法コンサルティング契約をシステム利用料に変更し、新たに SEO 対策及びコンサルティング契約と営業支援ツールを導入した。

支払手数料：+11 万円

システム利用料を勘定科目に追加したことで、これまで支払手数料に含めていた分が減少したが、在庫管理のコンサルティング費用等により増加。

【営業利益】 2,556 万円（対前年比+198 万円=108.4%）

[営業外収益]・・・太陽光発電 107 万円（+4 万円）。
利子補給（けんしん・八十二銀行/年 2 回 4 月・10 月）77 万円。

[営業外費用]・・・利息 83 万円（-6 万円）

【経常利益】 2,689 万円（対前年比+143 万円=105.7%）

【当期利益】 1,861 万円（対前年比-281 万円=86.9%）

【総論】

伸び率や利益は前期までとはいかなかったが、順調に売り上げることができた。
支出に関しては、修繕費、旅費交通費、消耗品費が増えているが、「日本生化学の生産機械類・事務備品引上げ」と「抗菌美装一部移転に伴うものと設備投資と修繕関連によるもの」である。

■貸借対照表

【流動資産】 10,272 万円（対前年比+766 万円=108.1%）

現金 3,417 万円（-2,092 万円）

商品 1,979 万円（+79 万円）

原材料 2,454 万円（+2,454 万円）

仕掛品 51 万円（-42 万円） 11/1 出荷分の売上の約 1/2 を計上した。

2023 年 5 月より注文頻度の高い商品については、あらかじめ在庫を製造することにした。

※勘定科目の変更

昨年まで、本来は原材料として勘定科目に記載すべきところであったが、長年商品という勘定科目を使用していた。今期より商品の在庫をするようになったことで、商品は商品、原材料は原材料の勘定科目を使用することにした。

通常の借入返済は約定どおり続けている。

売掛金や受取手形は 12 月末時点ですべて現金化していて不良債権はない。

【固定資産】 3,218 万円（対前年比+655 万円=125.6%）

今期取得したものは、中古印刷機+180 万円。車両運搬具+864 万円。中古プリンター+20 万円。プリンターオプション+190 万円。卓上型シーラー機+69 万円。ビジネスホン+267 万円。エアシャワー（2 台）+160 万円。

少額資産として+188 万円、内訳はキューブアイスディスペンサー+22 万円。ノートパソコン（3 台）+66 万円。冷蔵庫+22 万円。液体充填機（2 台）+40 万円。コンプレッサー+15 万円。階段スロープ+10 万円。インキュベーター+12 万円。

まとめると、増えた要因は中古印刷機とアルファードを買ったことが原因である。

【流動負債】 1,594 万円（対前年比-16 万円=99%）

買掛金 906 万円（+172 万円）は通常の間掛けである。

【固定負債】 6,681 万円（対前年比-422 万円=94.1%）

長期借入金内訳	長野県信用組合	2,900 万円	
	2024 年 3 月までは利息分		30,000 円/月返済
	2024 年 4 月から元本元金+利息分		370,000 円/月返済
	八十二銀行	3,542 万円	
	2024 年 3 月まで		280,000 円/月返済
	2024 年 4 月から		650,000 円/月返済
	日本政策金融公庫	35 万円	50,000 円/月返済
	鈴木健太郎	203 万円	

【株主資本】 5,215 万円（対前年+1,861 万円）

【総論】

毎月の返済額は 2023 年 12 月時点で、八十二銀行 28 万円、長野県信用組合 3 万円、日本政策金融公庫 5 万円=36 万円である。

銀行借入れは予定通り返済している。

コロナ資金の 4,000 万円分の返済は 2024 年 4 月から返済開始となる。

売上は増加したが、現金が 3,417 万円に（対前年比-2,092 万円）減少した。

2023 年 5 月より商品在庫製造を始めたこと、日本生化学の生産機械類・事務備品を買受けたこと、社用車を 2 台購入したことが要因であると考えられる。

【第13期の重点施策】

■売上面

＜温泉の素分野＞

新型コロナウイルス感染症の感染症法上の位置付けが2023年5月に5類に移行し、旅行需要が回復したことで、今期の温泉施設の新規契約件数は前年比で106.8%の増加。来期においても、国際ホテルレストランショーへ出展し、積極的な見込み顧客にアプローチすることで、引き続き伸長する見通である。

＜入浴剤分野＞

今期は、春の販促 expo2023 へ初出展した。ノベルティ、記念品・贈答品など販売促進に関する製品が一堂に出展される中、3日間で延べ250人を超えるお客様がブースへ来場し「温泉の素」に関心を示され手ごたえを感じた。

来期は、ギフトショーへ出展する。ギフトショーは日本最大級規模の展示会であり、弊社ブースの来場者も400人を超える。卸売業者、有名量販店、百貨店、商社などから新規契約を獲得できる場であり、積極的な見込み顧客にアプローチすることで、こちらも引き続き伸長する見通である。

＜化粧品分野＞

昨年同様、既存の温泉の素（入浴剤）の取引先へ少しずつ展開していく。

■設備投資

＜温泉の素、入浴剤、化粧品、共通＞

・今期は、商品在庫を製造することで労働時間の平準化を図った。

来期は、2024年春頃に完成予定の在庫管理システムを導入し、手作業で行っていた在庫管理を自動化する。（製造指示、出荷指示、ピッキング業務、棚卸業務を自動化、工数削減化する。）

これにより、効率的な在庫管理が可能となり、従業員の作業負担の軽減につながる。

また、正確な在庫の管理や追跡が可能となり、在庫の欠品や過剰在庫のリスクも軽減される。

・イージーリフト

高齢労働者の労働災害を防止するため、エイジフレンドリー補助金を活用し、イージーリフトを導入することで体への負担を軽減し業務を遂行させることが可能になる。

・液体充填機

新たな分野のシャンプー・トリートメント・ボディソープの製造に取り組み、既存取引先である旅館との取引の拡大を図るとともに、新規市場としてホテル業界に進出することで売り上げ拡大につなげていく。

・ハイクオリティ印刷機

今回導入するフィルム印刷機によりクオリティの高い印刷が実現できる。

■6月に社員研修旅行

台北を予定している。2020年に海外社員研修旅行を計画したが、コロナにより断念した。

弊社の理念は温泉文化を推進することであり、温泉に入ることは温泉文化の推進に欠かせない。何と台北にも温泉があるようだ。海外であっても温泉は是非入りたい。

そして、現在は日本国内の温泉の素にとどまっているが、海外の温泉を研究し、新たなニーズを探求したい。

■来期に向けて

新たな事業としてシャンプー・トリートメント・ボディソープの分野へ進出する。
2024年2月の国際ホテルレストランショーで新商品として紹介し、そこから既存の取引先ホテルを中心に販促活動を進める。
高価格帯商品となるため提案先は限定されるであろう。そこで、新規取引先として温泉旅館以外の新市場（ハイクラスホテル等）へ販路拡大を企図している。

比較決算報告書

(第12期)

自 令和 4 年 11 月 1 日

至 令和 5 年 10 月 31 日

温泉の素. com 株式会社

長野県飯田市中村1758番地2

比較貸借対照表

令和 5 年 10 月 31 日現在

科 目	資 産 の 部			
	当 期	前 期	増 減	増減率
	円	円	円	%
【流動資産】	[102,728,025]	[95,058,966]	[7,669,059]	[8.1]
現金及び預金	34,178,182	55,107,726	△20,929,544	△38.0
受取手形	354,000	579,520	△225,520	△38.9
売掛金	21,196,109	19,243,491	1,952,618	10.1
商品	19,793,400	18,996,070	797,330	4.2
原材料	24,547,518	0	24,547,518	
仕掛品	516,380	946,178	△429,798	△45.4
前払金	1,686,667	0	1,686,667	
前払費用	18,950	0	18,950	
未収入金	187,119	185,981	1,138	0.6
抗菌美装俵	249,700	0	249,700	
【固定資産】	[32,189,350]	[25,634,509]	[6,554,841]	[25.6]
(有形固定資産)	(30,634,957)	(23,861,909)	(6,773,048)	(28.4)
建物	4,304,008	4,686,585	△382,577	△8.2
建物付属設備	1,243,734	0	1,243,734	
機械装置	8,838,759	12,650,325	△3,811,566	△30.1
車輛運搬具	8,227,350	708,525	7,518,825	*****
工具器具備品	7,588,687	4,735,483	2,853,204	60.3
一括償却資産	432,419	1,080,991	△648,572	△60.0
(無形固定資産)	(429,468)	(866,375)	(△436,907)	(△50.4)
ソフトウェア	429,468	866,375	△436,907	△50.4
(投資その他の資産)	(1,124,925)	(906,225)	(218,700)	(24.1)
敷金	340,500	340,500	0	
保険積立金	784,425	565,725	218,700	38.7
資産の部合計	134,917,375	120,693,475	14,223,900	11.8

比較貸借対照表

令和 5 年 10 月 31 日現在

科 目	負 債 の 部			
	当 期	前 期	増 減	増減率
	円	円	円	%
【流 動 負 債】	[15,949,080]	[16,115,719]	[Δ166,639]	[Δ1.0]
買 掛 金	9,067,617	7,341,559	1,726,058	23.5
未 払 金	56,000	117,260	Δ61,260	Δ52.2
預 り 金	12,763	0	12,763	
未 払 法 人 税 等	6,252,300	4,003,300	2,249,000	56.2
未 払 消 費 税	560,400	4,653,600	Δ4,093,200	Δ88.0
【固 定 負 債】	[66,814,315]	[71,039,700]	[Δ4,225,385]	[Δ5.9]
長 期 借 入 金	64,775,000	68,963,000	Δ4,188,000	Δ6.1
長 期 借 入 金 役 員	2,039,315	2,076,700	Δ37,385	Δ1.8
負 債 の 部 合 計	82,763,395	87,155,419	Δ4,392,024	Δ5.0
	純 資 産 の 部			
【株 主 資 本】	[52,153,980]	[33,538,056]	[18,615,924]	[55.5]
(資 本 金)	(20,000,000)	(20,000,000)	(0)	
資 本 金	20,000,000	20,000,000	0	
(利 益 剰 余 金)	(32,153,980)	(13,538,056)	(18,615,924)	(137.5)
繰 越 利 益 剰 余 金	32,153,980	13,538,056	18,615,924	137.5
純 資 産 の 部 合 計	52,153,980	33,538,056	18,615,924	55.5
負 債 及 び 純 資 産 の 部 合 計	134,917,375	120,693,475	14,223,900	11.8

比 較 損 益 計 算 書

科 目	当 期	前 期	増 減	増減率
	円	円	円	%
【純 売 上 高】	[238,462,007]	[222,175,892]	[16,286,115]	[7.3]
温泉の素売上高	234,277,048	218,084,872	16,192,176	7.4
化粧品売上高	4,184,959	4,091,020	93,939	2.3
【売 上 原 価】	[52,304,653]	[62,374,543]	[Δ10,069,890]	[Δ16.1]
期首棚卸高	19,942,248	14,014,516	5,927,732	42.3
温泉の素仕入高	76,948,987	66,524,807	10,424,180	15.7
化粧品仕入高	454,766	831,290	Δ376,524	Δ45.3
仕入値引戻し高	Δ184,050	0	Δ184,050	
合 計	(97,161,951)	(81,370,613)	(15,791,338)	(19.4)
期末棚卸高	44,857,298	18,996,070	25,861,228	136.1
売上総利益	(186,157,354)	(159,801,349)	(26,356,005)	(16.5)
【販売費及び一般管理費】	[160,597,317]	[136,227,725]	[24,369,592]	[17.9]
営業利益	(25,560,037)	(23,573,624)	(1,986,413)	(8.4)
【営業外収益】	[2,149,332]	[2,765,974]	[Δ616,642]	[Δ22.3]
受取利息	598	1,227	Δ629	Δ51.3
売電収入	1,076,852	1,034,420	42,432	4.1
雑収入	1,071,882	1,730,327	Δ658,445	Δ38.1
【営業外費用】	[839,845]	[908,041]	[Δ68,196]	[Δ7.5]
支払利息	839,845	908,041	Δ68,196	Δ7.5
経常利益	(26,869,524)	(25,431,557)	(1,437,967)	(5.7)
【特別損失】	[0]	[3]	[Δ3]	[Δ100.0]
固定資産除却損	0	3	Δ3	Δ100.0
税引前当期純利益	(26,869,524)	(25,431,554)	(1,437,970)	(5.7)
法人税、住民税及び事業税	8,253,600	4,003,300	4,250,300	106.2
当期純利益	(18,615,924)	(21,428,254)	(Δ2,812,330)	(Δ13.1)

比較販売費及び一般管理費

科 目	当 期	前 期	増 減	増減率
	円	円	円	%
広 告 宣 伝 費	2,622,815	1,962,359	660,456	33.7
荷 造 運 賃	5,156,023	4,588,960	567,063	12.4
役 員 報 酬	9,960,000	5,400,000	4,560,000	84.4
給 与 手 当	53,612,854	58,330,006	△4,717,152	△8.1
退 職 金	800,000	1,500,000	△700,000	△46.7
雑 給	22,978	179,680	△156,702	△87.2
法 定 福 利 費	7,588,331	7,265,426	322,905	4.4
福 利 厚 生 費	5,316,910	3,040,220	2,276,690	74.9
減 価 償 却 費	13,064,552	10,213,253	2,851,299	27.9
人 材 派 遣 費	373,164	0	373,164	
修 繕 費	7,609,348	1,070,635	6,538,713	610.7
事 務 用 品 費	1,570,299	691,943	878,356	126.9
消 耗 品 費	10,533,420	6,261,178	4,272,242	68.2
水 道 光 熱 費	1,443,546	1,642,065	△198,519	△12.1
旅 費 交 通 費	6,892,622	3,081,091	3,811,531	123.7
支 払 手 数 料	2,634,874	2,519,105	115,769	4.6
租 税 公 課	1,152,630	500,228	652,402	130.4
交 際 接 待 費	681,909	284,722	397,187	139.5
保 険 料	2,544,735	5,530,614	△2,985,879	△54.0
通 信 費	441,331	740,148	△298,817	△40.4
諸 会 費	202,080	112,600	89,480	79.5
車 輜 費	1,037,653	322,953	714,700	221.3
新 聞 図 書 費	10,815	64,408	△53,593	△83.2
地 代 家 賃	20,416,290	20,240,799	175,491	0.9
研 修 費	181,561	490,005	△308,444	△62.9
研 究 開 発 費	42,981	126,611	△83,630	△66.1
管 理 諸 費	63,600	62,427	1,173	1.9
貸 倒 損 失	60,590	0	60,590	
雑 費	269,196	6,289	262,907	****
システム利用料	4,290,210	0	4,290,210	
販売費及び一般管理費	(160,597,317)	(136,227,725)	(24,369,592)	(17.9)